

奏であう人 vol.71

子育てしやすい山形を目指して



やま かわ ゆい み
山川 唯美さん(山形市)

1986年生まれ。山形市在住。2018年に山形のママたちが気軽に情報交換できるコミュニティ「mama*jam」を設立し、現在は約800人が参加している。「mama*jam」では、SNSを活用した子育ての疑問、不安などに関する相談や、メンバーが交流を深めるオンラインイベントの開催など、山形のママたちがひとりの女性としてイキイキと輝くための活動を展開。1児のママ。



妊娠・出産・子育てという共通の経験を通じ、絆を深めるmama*jamのメンバー。コロナ禍から平常を取り戻しつつある今年は“繋がる・広がる・羽ばたく”をテーマに、メンバー同士が直接会ってつながりを築く場の提供を目指している。



パフォーマンス **たつみ**さん(東根市)

1988年生まれ。尾花沢市出身。2009年に出会った大道芸人のパフォーマンスに魅せられ、自らも大道芸の道を志す。平日は会社員として勤務し、週末はパフォーマーとして県内外のイベントなどで活動している。子どもの笑顔を増やしたいという思いから、活動の収益を県内の保育施設に寄付する取り組みを続け、全35市町村への寄付を目標にしている。2児のパパ。



マジックやパントマイム、ジャグリングを得意とし、中でも水晶玉を腕や体の上をはうように転がしたり、移動させたりと意のままに操るパフォーマンスは、たつみさんの代名詞として知られている。

新たなつながりの形

「山形で生まれ育ち、友人や先輩が多いはずの私ですが、妊娠・出産期に相談する相手がおらず、不安と孤独を感じていました。産後も、インターネット上にあふれる不確実な情報を見ると不安になる日々でした。」

そんな時、山川さんは、子育てをしている友人を誘って、SNSを利用したグループを作り、相談に乗ってもらったと言います。この経験が、SNSで悩みを相談できるコミュニティ「mama*jam(ママ・ジャム)」の設立へとつながります。

「コロナ禍もあって、似たような境遇で悩んでいるママが多いと感じています。山形で妊娠・出産・子育てをする仲間として、お互いの悩みを解決し、絆を深めていきたいです。」

ママ・ジャムには、妊娠中のプレママからおばあちゃんまで幅広い年齢層のメンバーが参加し、おすすめの遊び場所から、子育ての悩みや自身のキャリア形成まで、さまざまな情報交換がなされています。

大道芸で子どもたちを喜ばせたい

一方、平日は会社員、週末は大道芸人として活動しているたつみさん。大道芸に打ち込むきっかけは、山形駅での大道芸人との出会いでした。

「彼が技を一つ決めるたび、観客からたくさん歓声が上がりました。私もいつかこうなりたいと思います。路上パフォーマンスを始めました。」

今では、県内をはじめ、近隣県にも活動の場が広がっています。

「たつみさんのお子さんの反応はいかがですか。」と山川さん。たつみさんが応えます。

「うちの子どもも大道芸が大好きです。教えていないのにボール回しのまねをしたり(笑)。マルシェなど大人向けのイベントでも、大道芸があれば子どもも楽しめます。親子で安心して遊びに行けるイベントを増やしていきたいです。」

関わり合い、支え合う子育て

「私が好きな大道芸をしている分、

オフの日は妻にリフレッシュしてもらい、保育園の送迎や食事の支度も分担するなど、二人で協力して自分の時間をつくることを意識しています。また、祖父母から子どもをみてもらえる環境のありがたさも実感しています。」

山川さんが共感して応えます。「心強いですよね。ママ・ジャムでも、おばあちゃんの経験からのアドバイスは頼もしいです。よく若い世代と上の世代とは考え方が違うと言われますが、子どもへの関わり方など変わらないこともたくさんあります。」

「子育ての悩みは、パパやママだけで抱えてしまいがちですが、さまざまな方に関わってもらおうことで、気持ちに楽になりますね。」と話すたつみさんに山川さんが応えます。

「これからはSNSだけでなく、ママが直接会って、つながり合い、関わり合える場をつくりたいです。」

「私も応援します!大道芸で会場を盛り上げますよ。」とたつみさん。二人の新たな活動の展開に期待が膨らみます。

